

特別講演

歴史を学び、ビジネスに活かす

出口治明

ライフネット生命保険株式会社 代表取締役会長

タテ軸・ヨコ軸で考える

人間は見たいものしか見ない。これは脳の構造・クセと言ってよい。一方で、人間の脳は1万年以上進化していない。喜怒哀楽や判断は同じということだ。昔の人はどう考えたかを、歴史を通して学ぶことが大切な所以である。

物事は「タテ軸・ヨコ軸」で考えるべきだ。タテ軸とは時間軸・歴史軸。主に過去にさかのぼって同じような問題に直面した人はいないのかどうかを調べる。ヨコ軸は空間軸・世界軸。「他の国ではどうなのか?」といった情報を集めて比較する。この2つの軸が、判断の精度を高めてくれる。

下の図は世界規模の所得変動を示すもので、「象のチャート」と呼ばれている。20年間で最も所得を伸ばしたのは中国など中進国の中間層、グローバル化の恩恵と言ってよい。象の鼻の部分に当たる一握りの金持ちの所得も大きく増えてい

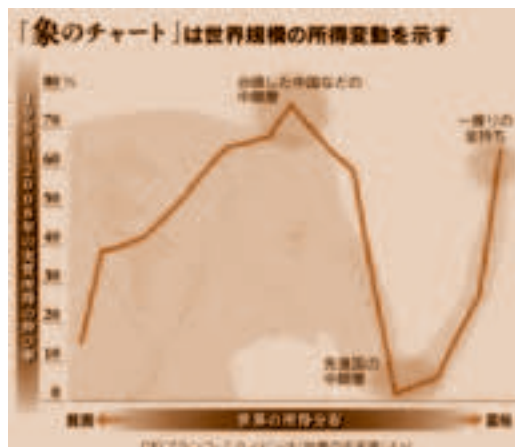
る。一方で、先進国の中間層の所得は全くと言っていいほど伸びていない。グローバル化の負の側面、メキシコに工場を奪われたアメリカ中西部の白人——トランプ支持者もこうした人々だ。

少子高齢化をどう解決するか

人口が減って栄えた社会や都市・地域は皆無である。日本経済の構造的な根本問題は少子高齢化。高齢化社会は介護などコストがかかる。何もしないで皆で貧しくなるのをよしとするのか、GDPを上げて取り戻すのかの2択しかない。

GDPを成長させるには生産性を上げるか人口を増やすしかない。かつての工場モデルでは長時間労働は当たり前だった。だが、サービス産業が全体の74%を占める現在、長時間労働では生産性は上がらない。「人・本・旅」が鍵だ。多くの人と会い、たくさん本を読み、現場へ行って体験を積むことからアイデアは生まれる。また、仕事をすることは、健康寿命を延ばす最も効果的な方法だ。定年を廃止して、年功序列制から同一労働・同一賃金へ転換できれば、社会保障費の抑制にも生産性向上にもつながる。いずれも働き方改革のきわめて重要な課題である。

出生率を上げるために、フランスは「シラク3原則」を推進した。第1原則は、女性が赤ちゃんを産みたいときに産んで困らないように給付すること。第2は待機児童ゼロ。第3に職場に元のランクで戻れること。これらを含む諸政策にフランスはGDP比3%の財源を投じ(日本は1~1.5%)、10年で出生率を1.6から2.0に引き上げることに成功した。



(当日資料から抜粋)

様々な角度から歴史を学ぶ

歴史を学ぶことは楽しいことであり、人生の役に立つ。いくつかの例を紹介したい。

苦言を呈してくれる人を大切に

『貞観政要』には、中国史上最高の名君と言われた太宗の3つの鏡が紹介されている。第1は本当の鏡。自分の顔や姿を見て、元気で明るく楽しそうかを確認する。第2は歴史の鏡。大きな流れは過去の歴史を見なければ分からない。第3は人間の鏡だ。「あなたは間違っている」と言ってくれる人をそばに置かない限り、人は必ず間違ふ。太宗は自分自身を正してくれる部下を大切にしていた。3つの鏡は、現代の私たちにも当てはまると言えよう。

腹が減っては戦はできぬ

歴史は、書いた人の価値観や時代を反映している。源氏の世に書かれた『平家物語』には栄華を極めていたおごる平家を源氏が滅ぼしたとある。30年前から当時の花粉や海底の泥を採取して分析したところ、平家の本貫の西国が気候不順で食糧不足だったことが判明。「腹が減っては戦はできぬ」で敗れたというのが真相のようだ。自然科学によって歴史が総合的に再現されるようになった。歴史は文系だけの学問ではない。

気候が歴史を動かす

農業だけが生産手段だった時代は気候が全てを左右した。2世紀に気温の低下で、ユーラシア大陸の北に住んでいた人々が南に移動を始めた。天山山脈などに行く手を阻まれ、西に向かった人々が「ゲルマン民族の移動」、東が「五胡十六国」といわれた。これによって、ローマ帝国の西半分、中国の北半分が滅ぶことになった。

交易は海の道と陸の道

日本の文明が北九州から生まれたのはなぜか。朝鮮半島南部の鉄が入ってきたからだ。鉄を使って農作業を行うことで能率が大きく上がった。人間と動物の最大の違いは交易である。動物は生態系を壊さずに資源を消費する貧しい生活を余儀なくされている。交易は生態系を破壊する一方で、



出口治明（でぐち・はるあき）

1948年三重県生まれ。72年に京都大学卒業後、日本生命保険に入社。ロンドン現地法人社長、国際業務部長などを経て、同社を退職。2006年に生命保険準備会社を設立し、08年にライフネット生命保険を開業。2013年6月から現職。『「全世界史」講義』Ⅰ・Ⅱ、『仕事に効く教養としての「世界史」』、『日本の未来を考えよう』など著書多数。

よそから新しいものを持ってくることによって暮らしを豊かにする。人々は世界中どこへでも出かけた。交易は主に海で行われていた。陸より安全であり、重たいものでも大量に運ぶことができるからだ。正倉院の財宝のほとんどは海から来たもので、シルクロードは物品よりむしろ情報の道だったのである。

昔から1つにつながっている世界

世界史の流れを見ることで日本の本当の姿が見えてくる。

ペリーが日本に開国を求めた理由は、捕鯨船の石炭や水の補給地が必要だったからだと学校で教わった。だが、アメリカの文献を見ると違うことが分かる。当時のアメリカは中国マーケットをめぐる大英帝国とライバル関係にあった。大西洋航路を使っている限りアメリカは勝てない。日本を開国させ中継地点を獲得し、太平洋航路を開くしかない。鯨はどうでもよく、日本はアメリカの国家戦略に組み込まれていたのだ。

日本の歴史は日本だけでは完結しない。昔から世界は1つにつながっている。このように歴史を見たら、いろいろな示唆を得られることだろう。

（要旨・文責広報部）■